

第47回

こくみん共済 東京
coop

小学生作品コンクール

テーマ

作文：新しく挑戦したこと

版画：自由課題



はじめに

小学生作品コンクールは、1973年度の第1回開催以来、今年度で47回目（47年度目）を迎えることができました。今回は、作文125点、版画1,434点、合計1,559点の素晴らしい作品をお寄せいただきました。当コンクールに向けて、一生懸命作文を書き版画を作り、応募くださった皆さん、本当にありがとうございました。

今回の作文のテーマは「新しく挑戦したこと」でした。日々の学校生活や習い事などの挑戦とその過程が、読んでいく中で次々と頭に浮かび上がり、一緒にその出来事に挑戦しているかのような臨場感あふれる作品の数々をお寄せいただきました。版画は今年度も「自由課題」でした。今年の干支のねずみをはじめ、鳥や猫などの動物、空想上の生き物や風景画、抽象画や自画像など、バラエティ豊かなテーマと独創性がそれぞれの作品に詰め込まれていました。また、紙版画や木版画、単色の作品や多色の作品など、素材や色を上手に使い、さまざまな技法で制作いただきました。

本来は皆さんからご応募いただいた作文・版画の作品のすべてをご紹介したいところですが、紙面の都合上、作文・版画の金賞・銀賞に輝いた33点のみとさせていただいております。ご容赦ください。

最後になりますが、審査いただいた先生方をはじめ、ご後援いただいた東京都教育委員会、応募にあたりご指導およびとりまとめをいただいた先生方、そのほかご協力いただいた皆さんに心より御礼申し上げます。

こくみん共済 coop 東京推進本部



もくじ

作文の部 コンクール入賞者

- 金賞作品 6
- 銀賞作品 23
- 作文の審査を終えて 46

版画の部 コンクール入賞者

- 金賞作品 50
- 銀賞作品 56
- 版画の審査を終えて 62

- 応募いただいた学校と作品数
 - 応募作品数・学校数 63
 - 64

金賞

はやねはやおき
ぼくの音色

東京都立大塚ろうつ学校 城東分教室小学部（1年）
マクタ作文教室（2年）

こやま 小山 豊晃さん
たなせ 棚瀬 準三さん

はじめての発表会

新宿区立市谷小学校（3年）

さかた 坂田 実優さん
たけむら さかた みゆうさん

新しい家族をむかえるじゅんび

光塩女子学院初等科（4年）

さめしま 鮫島 綾佳さん
さめしま さめしま あやか

高飛びへの挑戦

光塩女子学院初等科（5年）

あやか 麻里菜さん
あやか まりな

背番号「4」への挑戦

北区立石淵小学校（6年）

おちあい 落合 隼也さん
おちあい らくあい しゅんやさん

日本のはょくふとかを学ぶ

光塩女子学院初等科（1年）

碧さん

「じゅくかな」

板橋区立蓮根小学校（2年）

さえじま 副島 希心さん
さえじま ふくしま きしんさん

クロール50メートル

新宿区立市谷小学校（2年）

ぱんない 坂内 晓さん
ぱんない さかうち あきさん

長きよりロングライド

田黒星美学園小学校（3年）

おさめ

みそのう 納 さくじゅたん
みそのう のう なつめ

努力することがんばります。

光塩女子学院初等科（4年）

おさめ

みそのう 御園生 なぎわん
みそのう やくぶな なぎわん

私とかるた

光塩女子学院初等科（5年）

おさめ

ほし りお 星 里桜さん
ほし りお ほし りお

未来の私くじけ！

光塩女子学院初等科（5年）

やすだ 安田 茉希さん
やすだ やすだ もいさん

ぼくが考えたこと

東京都立大塚ろうつ学校 城東分教室小学部（6年）

ささき 佐々木 檀之介さん
ささき ささき たんのすけ

自学ノートとライバル

東京都立大塚ろうつ学校 城東分教室小学部（6年）

はらたけと 原健人さん
はらたけと はら けんじんさん

コンクール入賞者



ワクワクした学びじかい	守田 暁也さん
はじめにのみ	帝京大学小学校（1年）
新しくなりやうせんした」と	光塩女子学院初等科（2年）
USAサマーキャンプに行く	田黒星美学園小学校（2年）
いわふるなできたが集まるお祭り	光塩女子学院初等科（3年）
心のかぐの回りつく	帝京大学小学校（3年）
ぼくは作家	東京学芸大学附属世田谷小学校（3年）
新しく挑戦した!」と~マット運動~	マクタ作文教室（3年）
新しく挑戦した!」と~マット運動~	新宿区立市谷小学校（4年）
完べきなえんぎ最高なえんぎ	調布市立上ノ原小学校（4年）
世界と交流	帝京大学小学校（4年）
私の新しい挑戦	光塩女子学院初等科（5年）
Let's communication	光塩女子学院初等科（5年）
がんばれ、私	光塩女子学院初等科（5年）
バシHで世界へはばたく	狛江市立狛江第三小学校（5年）
ありがとり、組体操	田黒星美学園小学校（5年）
気持ちの結晶	練馬区立泉新小学校（6年）
支えてくれる人たちと共に	マクタ作文教室（6年）
ほりりを持つて	マクタ作文教室（6年）
姫野 ひめの	大川 おおかわ
吉田 よしだ	平野 ひらの
玲奈さん れいな	山本 やまもと
修旗さん しゅうき	吉田 よしだ
	島貫 シマグネ
	西 西
	遊佐 ゆざわ
	山口 やまぐち
	大北 おおきた
	隼矢さん じゅんや
	井上 いのうえ
	ミモザさん ミモザ
	新間 しんま
	岡 おか
	稻富 いなみ
	久保 くぼ
	海英さん みえ
	舞華さん まいか
	守田 もりた
	知世さん ともよ

金賞

はやねはやおき

東京都立大塚ろう学校
城東分教室小学部 (1年)

小山 こやま 喬晃 たかあきさん

「はやねはやおき」

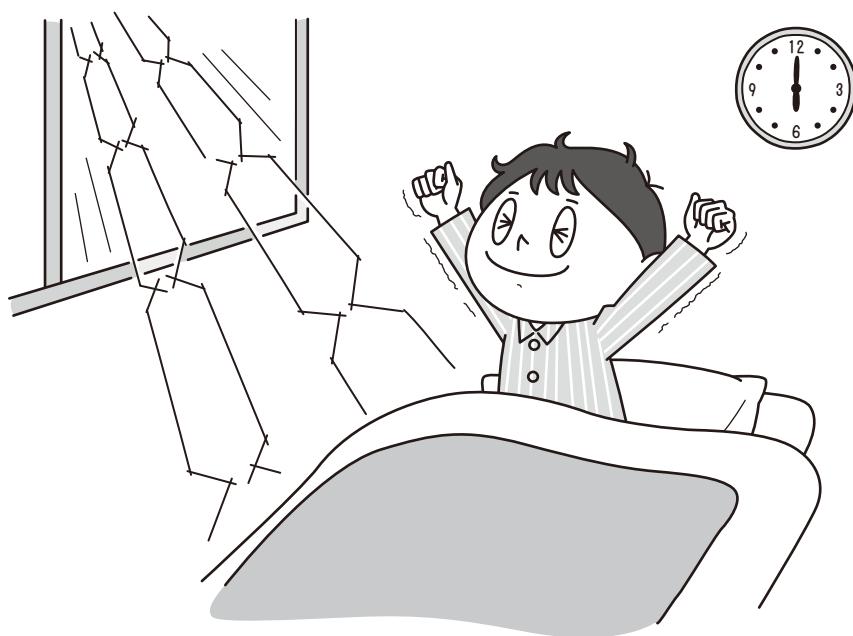
小山 喬晃

「ぼくは、「はやねはやおき」に
ちょうどせんしていきます。まえに、
とち、「とうこうじかんがおきいよ」と
とも、「だちにいわれました。ちよ、
とくやしくなりました。どうや、

たら、「ぼくもはやくとう校でくる
のかな」とかんがえました。クラス
で一はんにきょううしつにつきたい
とおもいました。だから、「はや
ねはやおき」をがんばることにし
ました。

した。一つめは、「あさひ」はんをし
かりたぐられます。二つめは、
あさのしたくをあわてずにするこ
とができます。三つめは、「みんな
から、「はがり」といわれます。
うれしくて、きぶんがいいです。
あさひはんは、とてもたいせつ
です。しっかりとると、一日は
んきにすごせます。よくうごくと
つかれます。つかれるとおなかが
すきます。おなかがすくとよくた
べられます。まんぶくになるとね
むくなりますが、すぐねむれてし
まいます。おきられます。これが「はや
ねはやおき」です。これをくりか
えすとけんこうながらだがつくお

ぼくは、はやおきのコツをしゃります。がぞくにおこしてもらつたり、めざましじけいをつかつたりしません。しぜんにおきるほうほうです。それは、はやおきのたのしみを見つけることです。ぼくは、はやおきのたのしみがあるとき、しせんにおきることができます。「あさごはんですきなものかたべられるとき」、「よみさかせのとうばんになつているとき」、「やりたいことがあるとき」です。やすみがつづくと、せいかつりズくがみだれます。なので、ふゆやすみは、学校がある日とあなたじ



じがんにはやおきして、まいにち
たのしくあんきにすごしたいとお
きります。みなさんも、ぼくのほ
うほうをさんこうにして、「はやね
はやあき」をまいにちつづけてみ
てくれさい。「はやあきはニキん
のとく」です。すこしりりことが
あるかもしませんよ。

選
評

悔しい経験をもとに、「早寝
早起き」に挑戦しようと決めた
小山さん。目標をもって挑戦す
ることで自分自身に起こつたい
いことを、具体例を用いながら
とても前向きに書き表していま
す。『早起きは三文の得』とい
うことわざを使ったり、読み手に
呼びかける工夫があつたり、読よ
んでいるこちらも挑戦してみよ
うという気持ちにさせてくれま
す。

金賞

ぼくの音色

ぼくの音色

二年 棚瀬 準三

一年前のお正月、ぼくは目じょ、うきたてた。それは、大好きなバイオリンで、バッハの^{おばんそう}曲を、上手にひけるようになること。

そのためには、

「かねうす、毎日れん習するぞ！」

とちかっ、たぼくは、どんな日もかねうす、バイオリンにふれる。みじかい日は三十分、長い日は三時間ほどれん習をかさねていった。そのかいあって、今年は、おばんそうちりでなく、新しい曲が七つもひけるよ。こんなた。広い場所でもひきたくなつて、たくさんこのコンクールにもんかした。

コンクールでうれしかったのは、ホールにひびく、ぼくの音色を聞いた時だ。どこも楽しげだったからだ。

バイオリンは、自分で音を作り、うたつよ

マツタ作文教室（2年）

棚瀬 準三さん

うにひくことができる。そのはんめん、自分の心が表われやすい。

セレモ、バイオリンがうごきをした音が、出でしまったうごきがたの見直しだけでなく、自分の心と重き合ふつようである。

だから、自分の、はずんだよつな明るい音色でホールがいっぱいになつたときは、大玉んごくだつた

ぼくのこれからうのよ、うせんは新しいやさかでさるようじれこいくことだ。

よさに今も、より樂しい音色にがまくくに、うきあともてはねさせた、

「トトトトト」

といふ音を出すスピーカーのれんしゃうをしているところだ。

ほかにも、ベッハの曲や、がつこいい曲などを、スラスラひけるようになりたい。コンクールのゆうしょうにむけても、ちょつとんしていきたい。

ぼくもいつか、大好きなバイオリン二重奏、

「ヘルマンがつむぐよなきれいな音を、ホル
ーい。ほりにびびかせたい。」
「バイオリンの音って、きれいだな。ぼく
も、ひいてみたいな。」

と、習い始めた三歳のぼくに、さいしょの先
生は、バイオリンの楽しさを教えてくれた。
先生のおかげで、ぼくはバイオリンが、モ
とも、と好きになつて、今では、自分がどう
うかんできることのようにまでなつた。
先生とはもう、よくなつてしまつたけれ
ど、ぼくの中に、ぼくの音色に、先生はすつ
とすつと生きづけている。

選
評

目標のために、こつこつ努力を重ねていることがよく伝わります。理由の書き方や例えの使い方も見事です。特に、「自分の心と向き合うひつようがある」という言葉から、真摯にバイオリンに向き合い、成長していることがよく分かります。ホールいっぱいにきれいな音色を響かせるバイオリニストを目指して、成長していくほしいです。

金賞

はじめての発表会

はじめての発表会

三年二組 坂田 実優

わたしが今年の夏に新しくちょうどうせんをしたことは、バレエの発表会に出て、おどることです。

七月三十日、千人ぐらいのおきゃくさんの前に、わたしは立っていました。たくさんのおきゃくさんの前でおどるのは、はじめてなので、とてもドキドキしていました。きちんと正しい氣持ちとともに、「や」とこの

日が来た」と、うれしい気持ちにもなりました。

なぜなら、わたしがバレエを始めたきっかけは、二年前に友だちのバレエの発表会を見たことだからです。二年前にみた時、「わたしもバレエになりたい」と思いました。すぐにお父さんとお母さんに「バレエを習

いたい」とおねがいしました。お父さんとお母さんがわたしの気持ちを分かってくれて、バレエを習えることになりました。

はじめてバレエ教室の体験に行つたのは、わたしが小学一年生の終わりのころでした。音楽に合わせて体を動かすのはとても楽しかったです。けれども、バレエの言葉と動きをおぼえるのが大へんでした。バレエの動きは先生がフランス語で言うので、言葉と動きをおぼえていないと何をやるのか全く分かりません。バレエは三才、四才などの小さいころから習い始める子も多く、わたしはバレエ教室の同じ学年の子の中で一番さい後に習い始めました。小さいころから何年も習っている子は、バレエの言葉と動きをたくさんおぼえているので、とても上手に見えました。でも、バレエの先生は、

「大じょうぶだよ。何年も習っている子にくらべて知らない言葉が多いのは仕方ないよ。」と言って、わたしに動きをしていねいに教えてくれました。

新宿区立市谷小学校（3年）

坂田 実優さん

くれました。わたしは先生にはげまされてうれしかったです。これから練習をもどかんばろうと思いました。バレエを習い始めた一年くらい後、発表会にむけてのれん習が始まりました。発表会のれん習は、今までのき本のれん習よりもさらに大へんでした。とくに、はじめはおどりをおぼえるのがむずかしかったです。はじめて発表会のれん習が始まった日、発表会まで半年くらいありましたが、発表会までのしつ

ンの回数をわたしは数えました。発表会までにおどりをおぼえられたか心配になつたからです。

れん習がつづけると、おどりはおぼえられただけれど、もう一つ大へんなことがありました。おどりながらいちをい動していくのに、自分がどの場所にいればよいのか分からぬい時がありました。

わたしのバレエ教室は、すきな曜日にすきな回数のしつスニをうけられるため、全員が

一どにそろうことにはふだんありません。だから、ふだんは二人一组でおどる場面も、相手の子がれん習日ではない時は、相手がいるとそうぞうして一人でおどります。そして、月に二回くらいの合同れん習の時に全員そろうので、自分のいちのかくにんをします。わたしはバレエを習って、発表会のれん習にはそんなくろうがあつたのをはじめて知りました。いよいよ発表会当日、わたしの二人一组でおどる相手は、二年前にわたしを発表会にさしつてくれた友だちです。顔を見ると、安心しておどることができました。大きなまちがいがなくおどれてよかったです。

発表会を終えて、ドキドキしたけれど、とても楽しかったです。そして、バレエ教室のお姉さんたちのように上手におどりたいと思いました。もし、わたしの出た発表会をみていたおぎやくさんの中に、わたしのようないいと思つてくれた子がいればうれ

しゃいです。そして、習いはじめたばかりで、バレエの言葉や動きが分からぬ子がいたら、大じょうぶだよーと心からおうえんしたいです。

「バレエ発表会当日」「始めたきっかけ」「発表会までの練習」「発表会当日」と時系列を工夫した構成が見事です。始めたばかりは心配の多かつた坂田さんが、大変なことがあっても諦めず挑戦し続ける姿に勇気をもらいました。『自分がバレエの魅力を伝えたい』と次の新たな挑戦に燃える坂田さんを応援しています。

選
評

金賞

新しい家族を むかえるじゅんび

光塩女子学院初等科（4年）

竹村 綾佳さん

新しい家族をむかえるじゅんび
光塩女子学院初等科 四年 竹村 綾佳

私はお父さん、お母さん、二才としのうのお姉ちゃんの四人家族ですが、九月に新しく家族がふえます。妹が生まれるのです。お父さんお母さんから、初めて聞いた時は、ひょくくりして言葉が出せんでした。いよいよ聞いていたお姉ちゃんもとてもひょくりしていました。すごくひょくりしたけれど、なんだかドキドキしました。最初は本当にお母さんのおなかに赤ちゃんがいるのか信じられなかつたけれど、うれしくて生まれてくるのが楽しみになりました。赤ちゃんが生れてくるために、お父さんとお母さんがいろいろとじゅんびしています。ベビーベッドを組み立てたり、オーツや、小さなお洋服を用意したり、赤ちゃんのために一生けん命です。私が生まられてくる時もこんなふうにいろいろと考えていらんびしてくれていたと思うとうれしい気持ちになりました。

お母さんのおなかがだんだん大きくなつてきて、よく休けいするようになります。おなかの中では赤ちゃんを育てるのに大変なことなんだと思いまして。お姉ちゃんはそんなお母さんを見てそうじ機をかけたり、おふろをあらたりするようになります。私もお母さんを助けられるように、自分のことは自分でやるよつにしました。

夏休みの間にはごはんの用意をオつた。りお米をといだり、お買い物を手伝いをしたり、せんたくものやふとんをほしたり、いつもお母さんかや、ているいろいろな家事に初めていたぬかのにおいままでお米かすてしまふからだそです。その後もお米が流れないよう気につけて何回をお水をかねなければいい

けません。ふだんお米をなにかなく食べていませんが、たけれどその前にこんなに大変なことをしていいたことを初めて知りました。せんたくものやふとんをほすのは、前はせせんたくを始めたときから、たけれど、この夏休みにはせか高くなつてできるようになつていました。ここでも気がつかついた事があります。それは、それを家族全員分きれいにしておくことほど大変だということです。また夏は天気がよくていつも直くなつたままです。またよりふとんかとても直くなつたままです。

【】

変わるので、天気をいつも気にしていかなければいけません。私の家では、買ひ物は一週間分をまとめて買ひます。前はスリーパーにたたつひいていただけだったけれど、手伝いはじめてから、何がどこにあるのかがだんだんわかるようになりました。うのもちでても大変でした。お母さんの大好きな买东西はとても重く、運ぶのも持て帰ってからしまった。うのもちでても大変でした。



し
た。

この上うに今まで見ていたお母さんの仕事をや。てみると思つていた以上に大変でした。お手伝いをするとお母さんはいつも「ありかとう。とても助かるよ。」と私やお姉ちゃんをほめてくれます。でも今まで私は家事はお母さんかして当り前だと思つていたので、こんなに大変な仕事を一人でいつもやっているお母さんをそんけいしました。これから赤ちゃんが生まれたら、といそかしくなると思う

当たり前だと思つていた家の仕事。お母さんの分も、一生懸命頑張ったのでしょう。新しい家族を迎えることへのわくわくした気持ちと、「お姉さんになるんだ」「お母さんのために」という责任感が伝わります。また、赤ちゃんが生まれたらしてあげたいことを、更に新しい挑戦として打ち出しているところも見事です。立派なお姉さんになることでしょう。

選
評



高跳びへの挑戦

□ 高跳びへの挑戦

光塩女子学院初等科五年 鮫島 麻里菜

「えっ！ こんなに高いのを飛ぶの？」

私が初めてそれを目にしたのは、駒沢体育館の地下にあるオリエンピックメモリアルギャラリーでした。二つのポールの間にバーが渡っています。そう、走り高跳びのバーです。これを背中をのけぞらせながら飛びこえるなんて、なんだかドラマやマンガの世界のようです。私が見上げていると、お母さんが

光塩女子学院

「高跳びの選手のことを、ハイジャニパー」と
いうんだよ。すいかか、こいい名前よね。」
と言いました。私は、「飛んでりる姿、なんだかエビみたいだね」と思わず笑ってしまいました。

五年生になって、体育の授業で、見覚えのあるボールとバーが用意されました。私達も授業で走り高跳びをやることになりました。メモリアルギャラリーで見たものよりは小さかったので、

「よし、飛びぞ！」
とやる気満々になつていきました。絶対に飛べるもん、とまるで選手になつたような気分でした。一歩、二歩、三歩、助走のあと、「一がしゃん！」

私の体と共にバーは地面にいました。これではえびではなく、いのししいです。この一瞬で私の自信は小さくしぼんでしまいました。

さっきまで小さく見えていたポールとバーが、急に巨大なカベのように私の前に立ちはだかってしまいました。

光塩女子学院

「なんだか怖いな」とまで思えてきてしました。もちろんえびのようなジャンプなんて全くできません。先生が、「とにかく足をあげて跳んでごらん。自分の飛びやすい跳び方を一つ一つ見つけてみるといいよ。」

「とにかく足をあげて跳んでごらん。自分の飛びやすい跳び方を一つ一つ見つけてみるといいよ。」

光塩女子学院初等科（5年）

鮫島 麻里菜さん

い、最初は足を高く上げる練習をしました。

「足はまっすぐ、高く、上げる、というよりも振る、というイメージ」

と心の中の自分に言い聞かせながら、足を動かしてみました。その時、私はふと、イチロー選手の引退会見の言葉を思い出しました。一人の倍、努力することは出来ないけれど、少しずつ、少しずつ努力を積み重ねていけば、いつの間にか人の倍の努力になっていた。

光 塩 女 子 学 院

私の心の中で、何かがはじけて動きはじめました。何度も何度も足を動かしました。その場でバー想像しながら、飛ぶイメージも作ってみました。時間が過ぎているはずなのですが、なんだかのんびりと、周りが待つていてくれるようでした。

「よし、出来る！」
助走をつけて勢いよく飛びました。フワッと体が浮きました。

「あれ？ あら？ わあ！」

気が付いたら、バーは私の後ろにいました。すると、先生は、

「さすが！ 出来たじゃん！」

と言つて私の背中をぽん、と押してくれました。最初に勝手に感じていた自信とは全く違う、なんだかず、しりとした自信がわいてきました。うれしくて、もう一度飛びたい！と思つていました。

努力をすれば出来る。積み上げることが大切なんだ、と私は実感しました。最初、五十

光 塩 女 子 学 院

セニチだ。たバーの高さが、いつの間にか九十五センチにまでなつていました。イチローの言つていたこと、それを聞かせてくれた先生の思ひを、少しだけ理解して受け取ることが出来た気がしました。今の私には、思いこみの自信ではなく、努力をしたという自信がついたのです。

私はまだ、エビみたいにきれいなジヤンブはとべません。でも、バーを飛びこえる景色と、飛び終わつたあとに見上げるバーは、と

てもきれいで、バーも、
「よく頑張ったね！」
と言つてくれて、いるようと思えます。先生も
言つていった、
「人には出来ないことはない。努力すれば、
きっと乗りこえられる。」
という言葉の意味が、この高跳びの挑戦で理解できました。まだまだ努力は必要だと思います。でも、この初めての挑戦に対する勇気は、これから私のパワーに
変わつて、いくと信じています。

光 塩 女 子 学 院

跳べずにあまりにも高く感じてしまつたバーを、「巨大な壁」。
『よく頑張ったね。』と言つてくれているよう、などと実際に豊かな比喩表現で書くことができました。心の動きまでも、読み手に伝える効果がありますね。挑戦し恐怖心を高く跳び越えた鮫島さんのパワーを色々な場面で、是非生かしていってほしいです。

選評

金賞

背番号「4」への挑戦

北区立岩瀬小学校（6年）

落合 隼也さん

背番号「4」への挑戦

落合 隼也

ぼくは野球が大好きだ：それほど上手ではなけれど。ヒットやホームランをたくさん打てるわけではないし、守備は任せろ！と言えるほど守木るわけでもなく、盗るいきいかいさ木るほど足が速いわけもない。でも、ほくの手だし、かりとにざる事が出来る仕の大ささのあの白いボールを一生けん命に追いかけるのが大好きなのだ。

四年生の時に今のチームに入りて、初めて

もう、た背番号は「5」：ポジションはサード。ぼくはサードの中備のし方を早く覚えようとした。サードとは、ろつ目のベースを守り、ボールを捕った後は正面のホームか、左のファーストかセカンドに打球をする。ラインのギリギリを抜ける様な打球を止める。バントをさせた時に素早くダッシュして捕球する。気持ちを強く持つていなければいけないポジションなのだ。ぼくがそんなサード

を任せられた理由は、「投玉ボルカガお、たかアだ」とコーキカラ言わねた。ファーストまで一番きよりのあるサードには、ボールを遠くまで投げることの出来る力が必要なのだ。

ところが、五年生になつて入ってきたメンバーが、今年は背番号「5」をもらつた。六年生としては平均的な身長しかないぼくよりも、その子は10センチ以上も背が高く、強い打球を遠くまで投げることが出来る力があるのだ。

次、隼也。

とかんとくに名前を呼ばれてぼくがもらつた背番号は「4」：ポジションは、セカンド。

今まで練習してきたサードとは、動き方も景色も全くちがう。ぼくに与えられた新たな挑戦だ。捕つたボールは正面のホーム、左のファースト以外に、右のセカンドやサードに投げる事もある。セカンドは、ショートとの連携がものすごく大事で、二人でセカンドベイスを守るのだ。また、ファーストのフォロ

作文の部

1で1るいにダンシユをして捕球しなければいけない事もある。

外野に打球が飛んだ時の動きは、本当に難しい。一緒にボールを追いかけるのか、中継役としてボールをもらいやすい場所にいるベイナムが、ランナーを迎えるためにセカンドベースにいる方がいいのか。野球というのは、身体だけではなく、実はものすごく頭を使つスポートなのだ。打球の行き先を見て、しゅん時に自分がどう動くべきかを判断しな

くてはいけないのだ。その基準となる位置が、二年間守つてきたださうじセカンドでは全くちがう。かんとくやコートに何度も怒られ、その度に教えてもらう、教わった事を忘れない様にするためにノートに書き留めたつもりだった。

たのだ。そしてそただけではなく、ベスト4に入る事も出来たのだ。

「卒団式」が行わ木た。一年間一緒にがんばってきた背番号「4」とお別れだ。背番号が無くなつたぼくのユニフォームの背中は、真っ白びすびく殺風景で、なんだか辛いものになつた。

分からぬ事だらけのセカンドの守備への挑戦。ぼくには最初は少し、いや、かなり重

く感じられた「4」という背番号が、最後には心地よいものになつていた。

四月からは中学生になる。ぼくは中学校へ行つても、野球を続けたいと思つている。新しいチームで、新しい仲間と新しい環境で、そして新しい背番号で始める事になる。正直、不安な気持ちは大きいけれど、ぼくによつての新たな挑戦の始まりだ、と思つて臨みたいと思つている。

新しい事への挑戦は、大変な事もあるし、

のチームは、秋の大会で勝利することが出来

辛い想いをする事もあるし、恐怖心もある。
でも、努力をしたソがんばったソしたその先
には、絶対に自分の成長につながる何かがある
はずだ、とぼくは信じている。

下級生にポジションを奪われた悔しさ。セカンドとして新たなチャレンジを通して勝利することによつて得た自信。背番号の重みを感じながらたくましく成長していく様子が伝わります。「絶対に自分の成長につながる何かがあるはずだ」と、挑戦する思いを持ち続けて未来に向かう姿が立派です。これからも更なる成長を応援したくなる作品です。

選評

銀賞

日本のしょくぶんかを学ぶ

光塩女子学院初等科（1年）

渡邊 碧さん

日本のはじめのしょくぶんかを学ぶ
わたなべ あおい

「こんどみんなでたんぽにおいて」と、おこわやさんのわばぐんぐといいました。うかのわたりごろにおこなわれ、ついけりのうかのたうえシアードです。わたしはおかあさんといどこのおにいちゃんといしょに、ツアーリスンをすることにしました。

ツアーリスンのとうじつ、とてもあくはやくからおこわやさんのまえにしゃうべつしました。

こんなにあくはやくからわでかけしたことがないので、ねもくてたまりません。ですが、目のまえに大きなバスがあたので、早くたんぽを見たい気持ちになりました。

たんぽがたくさんありました。たんぽの中をのぞくと、わんぱやかえるやわたまじゅくしがいました。草のところには、こわうぎやバッタがいました。おにいちゃんたちといしょに虫をつかまえて、もううなってあられました。

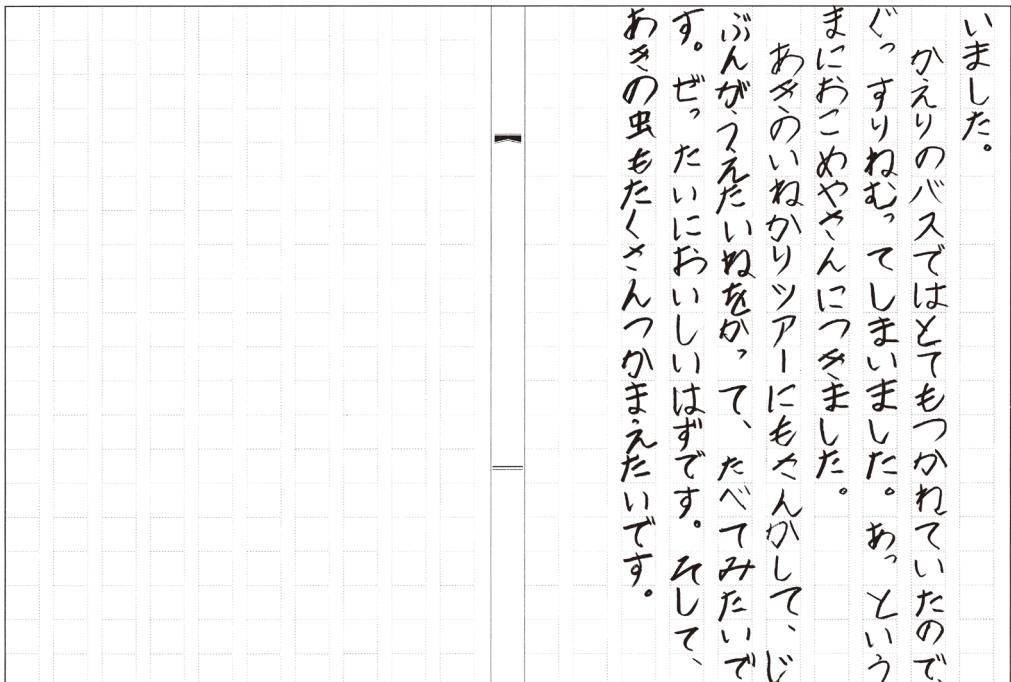
「たうえはじめるよー」と、のうかのわじょんかいいました。いやいでたんぽにむかい、くつをぬぐくつしたをぬぎました。くそくたんぽにはいると、へひああーと、ニエグりました。つねたい水と足の下のどりがきもちよが、たです。わじょんのしじにしたがってなえを2、ろ本ずつうえていただきました。おじょんのあいすで、一ぱまえにてまたうえます。一つのたんぽをうえおわる

のに、みんなでさよづりよくしてたくさんじかんががかりました。のうぎようってたいへんだなあとぐんじました。

たうえがおわるとおまちかねのおひるごはんです。まだてたいたわくまのごはんとどんじると、タヤベツとぎゅうりのわつけものです。たうえをしてつかれたのでとてをわいしくかんじました。わたしはいつもうかの人かつく、たおこめをたべているので、かんしゃのタをちをち、てへほんをだべようとおも

いました。

かえりのバスではとても分れていたので、ぐっすりねむってしまいました。あ、というまにおこぬやさんにつきました。
あたのいねかりツアーにもぐんかして、じぶんがつたいたぬをかって、たべてみたいであります。ぜったいにおいしいはずです。そして、あきの虫もたくさんつかまえたくなります。



銀賞

「できるかな」

「できるかな」

さえじま キ心

「ぼくは、およげます。」
てん校したはすね小学校で、言いました。た
んにんの先生とそなへんして、「アールのよ
がおよげる」の七きゅうに、なりました。
しかし、アールのじゅぎょうで、およげな
か、たため「頭までぐわ」の十きゅうに、
なってしまいました。

ぼくは、およげると思って、いたので、ショ

クでした。

「も、と、がんばらないと!!」

それから、ぼくのちうせんがはじまりまし
た。目ひょうは、七きゅうにしました。そし
て、何で、およげないかを考えてみました。
ぼくは、顔に水がつくのがいやで、こわい
からだと思いました。でも、そんなことが、
「あるくて、言えませんでした。弟に、
「え、そんなこともできないの?」
と、言われるのがいやだ、だからです。」

夏休み、おきなわの海でおよぎました。男
は、じまんさうにおよいでいました。ぼくは
くやしく、こちらんぶりして、うきわでおよ
いでいました。その時、あばさんがあいました。
「キ心、およげますようになりたい?」
ぼくは、大きめ声でうなずきました。どう
せ、れんしゃうしてもおよげない」と、思
たけれど、どうしてもおよげるようになりました。

つまごの日から、れんしゃうがはじまりまし
た。おばさんとのれんしゃうは、きびしかつ
たどす。まず頭をもつてもうて、うくれし
ゅうをしきした。でも力が入って、おしりが
しづんで、しきります。おしりも、くきをそ
もうて、てが、と、うくことができました。
二日目、うくことができるようになつたの
で、手を引つけて、ともうて、けのびのれん
しゅうをしました。

三日目には、少し水がこわくなくなつて、

板橋区立蓮根小学校（2年）

そえじま 副島 希心さん

いました。それを見て、おばさんと言いました。

「よし、うかいと、今まで行ってみよう。」

ぼくは、心配いだつたのうきわをもって行こうとした。でも、おばさんにかえられて、足のつかないほうへなげられました。ヤバイ!」「ぼくは、ひっしにしずまないようにしました。

「すばいい。およげたじやん。」

まわりにいたみんなが手をしてくれまし

た。ぼくは、およげたので、びっくりしたけれど、すぐくされしかったです。

東京にもどり、学校のアールに行きました。前よりも、およげるよつにぎていたし、水なんこ、ちつともこわくなくなりっていました。
夏休み、「」のアールは、けして一日でした。ぼくは、四人のグループでおよげました。アールのはしかくスタートです。先生の「えの合図で、およぎはじめました。
「だいじよつぶかなか」とぼくは、心配いでし

だけど、ぼくは、大きめとしんじておよぎました。と中でくらしくだつたのが、立ちそろになりました。でも、まけたくなかつたのをさうござりました。でも、まけたくなかつたのをさうござりました。

「やつた! 二十五メートルおよげたぞ。」

と思いつめほどのですが、ぼくは、十二、五メートルおよげろ! の六十九をうだつたのです。二十五メートルおよげたと思つていたのですが、くわしかつたのです。でも、六十九をうなれることは、うれしかつたのです。

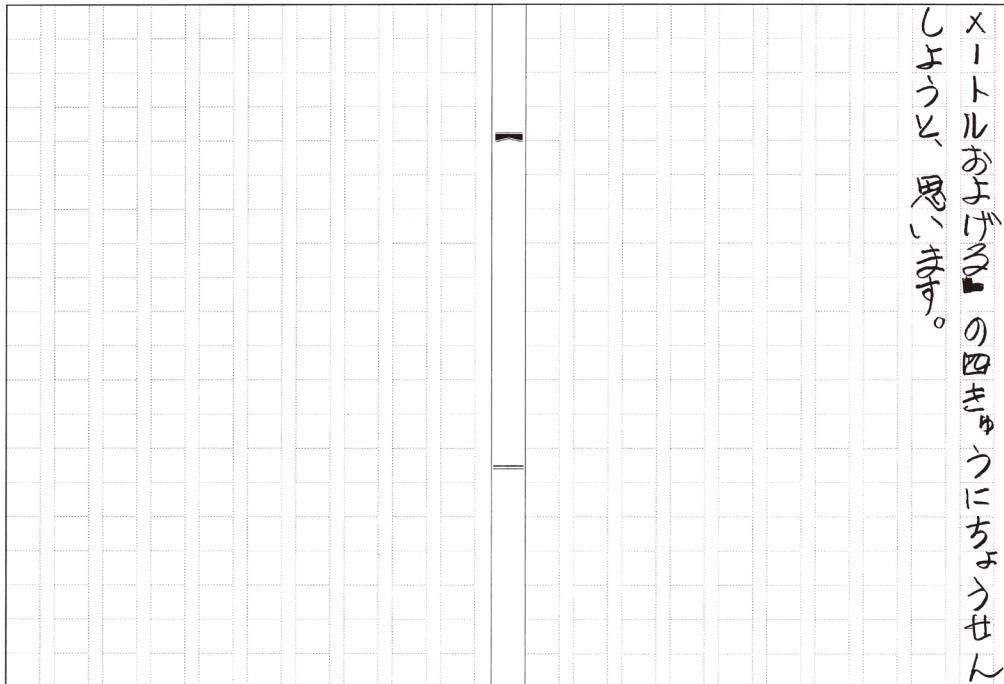
クラスの友だちに、

「ギバくん、もう六十九うねのつづりにな」

ど、おどろかれました。ぼくは、あきらめずちょせんしてよかつたと、その時すばく思いました。

それからぼくは、スイミングスクールに通ははじめました。

今では、クロールで二十五メートルおよげるようになります。およげるよつになるのは、たのしいです。来年は、クロールで二十五



メートルおよびの四半にちよせん
しようく、思ひます。





クロール50メートル

新宿区立市谷小学校（2年）

坂内 暁さん

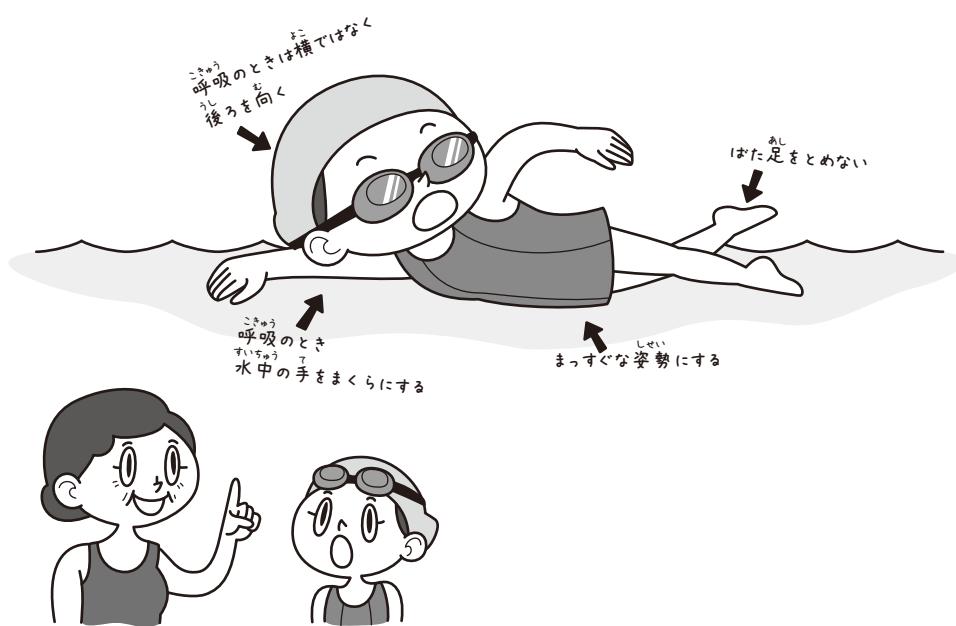
る	か	わ	ク
ん	お	た	ロ
だ	よ	た	一
よ	く	し	ル
レ。	ロ	の	50
に	ー	の	メ
お	ル	目	ー
よ	を	ひ	ル
ぐ	上	よ	50
に	手	ぎ	メ
は	に	く	ー
四	あ	ら	ト
つ	あ	く	ル
の	ち	く	ル
ポ	ん	な	メ
イ	は	ら	ー
ン	は	う	ト
ト	は	こ	ル
か	は	と	ル
あ	は	に	ル

めに、ばた足をとめないこと。
教えてくれました。まづはじめ
つめは、こきゅうのときにつ
けている手を、まくらにすること。
三つめは、こきゅうのときによ
こをおくのではなくて、うしろを
むくことです。さいごは、しせい
です。しせいは、えいごのはじめ
うな形にそるのではなくて、きち
んとまつすぐなしせいがよくなつて、
とです。これらのがポイントをまち
るごとで、しせいがよくなつて、
早く、上手になるのだからうござ
れたしは、それらのやくそくごと
を一つ一ついしきするごとで前よ
りもずいぶん上手におよげるよ

作文の部

つて なりまし た。 れは、ばた足のはやさです。ばた
足のはやさは、うどいのから自分ではわかりませ
んでし た。 けれどはやいパターンに分けられし
とおきいパターンに分けられし。
やうしてみるこ・はやいほらがは
やくすすむことがやりました。
また、ばた足の高さにフイても、
やつてみてもわかるな
た。 わたしは、なんどもなんども
ちよ うせんしたけれど、どちらも
あまりかわらなかつたので、あま

ほた足は、じつぢもい、けれど、	いちばんいのは、水と水のすい
めんのまん中でするこじだよ。	と教えてくれました。そして、そ
前に気をつけておよいでみる」と、そ	れに気をつけておよいでみる」と、そ
に気づきうれしかつたつしていること、そ	と教えてくれました。そして、そ
さんち、クロール	に
かんぱりが、かさなつていいつかは	うせんしてみてもうたつしていること、そ
じょうずになれるのだと思います。	うれしかつたつしていること、そ
クロールのれんしゅうはときには	うたつしていること、そ
くるしくてあきらめかけたことも	うたつしていること、そ
ありましたガ、小さなじりよくが	うたつしていること、そ
つみかさなつて、今では目ひょうう	うたつしていること、そ



銀賞

長きよりロングライド

目黒星美学園小学校（3年）

納め セブンさん

長い地点です。さい初は20km地点にあり、あ

れます。中には、とても久しぶりに会う友だちもいたので、これから二日間いっしょにいいました。私は今年の夏、東京？軽井沢の、私史上長い長の自転車ロングライドにちょうどせんしました。

一日目、早朝の5時半にかわりん海公園でいっしょに軽井沢までいく、16人の友だちと集合しました。私の3才年下の妹もいっしょにいきます。4才から18才までの友だちと、その保育者の方たちも、いっしょに走ってく

れます。中には、とても久しぶりに会う友だちもいたので、これから二日間いっしょにいいました。私の3才年下の妹もいっしょにいきます。4才から18才までの友だちと、その保育者の方たちも、いっしょに走ってく

飲みほうだい、食べほうだいですが、私は少しだけ食べて、エネルギーをためます。次にまつているのがどんな道かわからないので。いちばんやる気をださせてがんばろう。とな

るのが保育者の方のおうえんです。「がんばれ！休けいままであと少し！」とはげましてくれたり、休けい地点についた時には、「がんばったね。」イエーイ♪

などいっしょによろこんでくれたりします。休けい地点のたびに思うのが、仲間がいるからがんばれる、です。保育者の方のおうえんや、みんなの笑顔がなかつたら、きっとがんばれなかつた、と思うからです。走り出すと、すぐにあら川サイクリングロードをぬけて、きれいに緑が広がる所を走り、ぐんま県に入りました。いなかだから、すがすがしい空気で、走りやすかつたです。しばらく走ると、

目黒星美学園作文用紙（三・四・五・六年）

目黒星美学園作文用紙（三・四・五・六年）

店内はすずしくて、エネルギー保きゅうにさ
いてきな場所でした。そばはもちもちで、お
いしかつたです。また走り出すと、太陽がで
てきてけつこう暑くなつてきました。夕方に
くま谷のホテルにつきました。温泉は、体と
心が温まつて、とても気持ちよかつたです。
夜ごはんは、花火をみながら公園で食べまし
た。夜ごはんはやき鳥で、とてもおいしかつ
たです。食後、みんなでおにぎりこをしまし
た。楽しかったです。夜おそく、それぞれの
へやでねました。

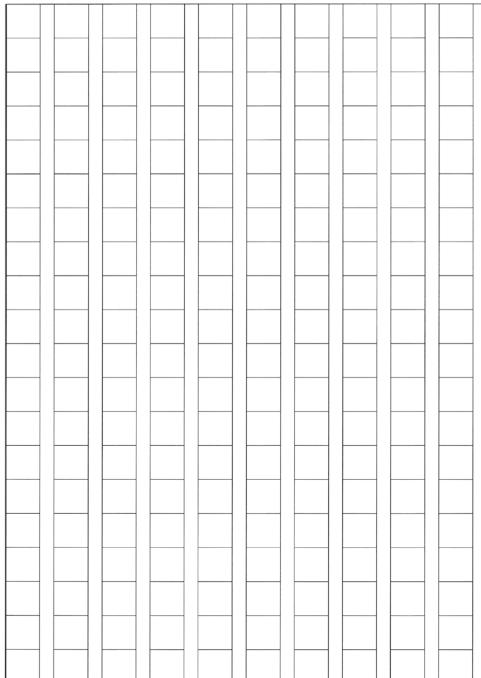
日黒星美学園作文用紙（三・四・五・六年）

二日目、朝早くにロビーにみんなで集合。
少しねむたかつたです。でも外に出て、一氣
に目がさめました。すずしかつたからです。
きのうと同じように、ずつと走つていると、
長野県に入り、さい終かん門、うすい峠に入
りました。大人でもこえるのがむずかしいの
で、こえられたうともうれしいです。でも、
つらいです。がけがすぐよこにあつてこわい
し、太ももがいたくてペースがゆつくりです。

年下の妹と小学生にぬかされていくのはとて
もはずかしかつたし、くやしかつたです。な
ので、できるだけギアを軽くして、しっかり
こぐよにしました。そうしたら、妹にぬ
ついたので、やる気が出てきました。妹にぬ
かされていましたが、一気にスピードを出し
て、ぬかしました。ぬかしたら、どんどんさ
をつけます。ギアを軽くしたり重くしたり、
ちようせいしてスピードを落とさないようにな
しました。ライバルの小学生にまでには届き
ませんでしたが、妹よりはやくついて、ゴー
ル！ とてもうれしくて、感動しました。出発
時の不安はもう、ありません。ぶじにゴール
できた時は、みんなに「おめでとう！」
ませんでしたが、妹よりはやくついて、ゴー
ル！ とてもうれしくて、感動しました。出発
時のおめでとう！」

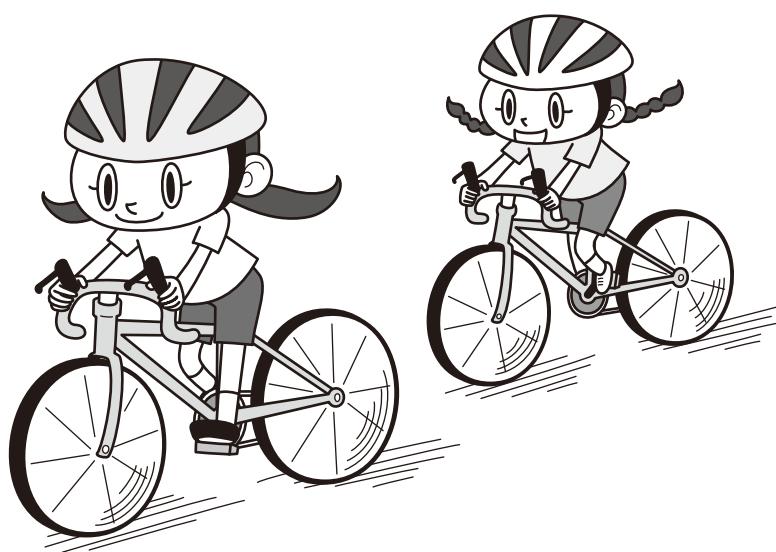
日黒星美学園作文用紙（三・四・五・六年）

べッドでリラックスしながら、みんなとあえ
て、よかつたな、と思いました。そしてこは



んは、ハイ！自由に好きな物をじつて、
自由に食べて、飲みました。じいは人の後、完
走証明書をわたされたので、自分は、がんば
れただ！完走したんだ！と思いました。そ
の後は、車で、帰りました。ごはんば
れただ！完走したんだ！と思いました。私
は、みんなにありがとうございました。
みんながいるからがんばれるロングライド、
これからもつづけていきたいです。

目黒星美学園作文用紙（三・四・五・六年）



銀賞

がんばります。

光塩女子学院初等科（4年）

御園生 なぎささん

努力する事がんばります。

四年 御園生 なぎさ

私は、努力することが苦手だ。なぜなら、めんどうだからだ。努力をしても、しなくて出来ないものは出来ない。そのようなマイナスの気持ちが、ぐるぐると心の中で回転していた。

四月のある日、運動会の応援団の募集があった。私は、一年生の時から応援団にあこがれていて、四年生になってオーディションを受けるのを今からと待っていた。

「これだ。これなら努力できる。がんばれる。」
その日から、「努力作戦」という新しいちよう戦が始まつた。大きな声で「フレー・フレー・赤組！」と言つたり、ダンスをおどつたりと、応援団にならるために、努力をした。

そして、オーディション当日――
「四年A組三十八番、御園生なぎさです。よろしくおねがいします！」

「おはようございます」のあいさつが、少しぎこちなくなつたりと気になる所はあつたが、うまく出来た。やれる事はやつた。もう大丈夫。

結果発表の日――

（次は私だ。私だ。私だ！）

ドキドキする胸をおさえて、結果を待つた。
結果は、不合格だった。あんなにあこがれ

ていたのに。あんなにかんばつたのに。どう

して不合格なの。あの子より私の方が向いている。どうして。どうして……。

その日はずつと、悲しい気持ちでいづいだ。しかし、私は努力をした。努力をする新しいちよう戦をした。これだけでも、すばらしい。新たなる道を切り開いたのだ。たしか、オーディションが終わつた時、大丈夫、と思つたのだ。その時は、愛かつて大丈夫がでした。受かっていなくとも、お友達を

作文の部

応援しようと思つていた。しかし、応援できなかつた。

今回反省するべきところは、そこではない。

新たに一步をふみだせろか、どうかといふところだ。私の一步をサポートしてくれる人々がすぐそこにいる。それは、当たり前ではなない。

私は、お友達にいやがらせをしたら、すぐにはなくなつてしまふ。

「もう来年はあきらめようかな。」

と言つた時、

「父お父さき」と出来るよ。

とげまされた。それをき。かげに、またがんばろう、とプラス思考になら事が出来た。

新しい一步をふみ出すと、このようになら見する事がたく山でてくる。そして、ちよつとばかりに、またがんばられた。

お友達は、「大事だね。それに気付くのも大事だね。新しいいちょう戦が、私を待つている。

ドキドキする最初の一歩は、とても大事な夕カラモノ。

努力するトネルの出口が見えてきた。努力する事はまだめんどくさいと思う事もあ

るけれど。す、と楽しくなる時がある。

それによつて、お友達を大切ににする事ができる。

ようになり、ぐれくらい大事なのが、といふ事を

る時に応援してくれ、大切な仲間だ。

だから、私が応援してもらう。たとうに、応援をする。新しいいちょう戦は、新しい発見が出来る、その人にこそ大切な事だから。新

たな第一歩がなかなか進めない子がいた時は、新しいのはいサポートしよう。そして、支えあってがんばっていく。

新しひちょう戦、ありがとう。私、今度は努力を身に結ぶ事が出来るようにならね。次はどうのような発見があるだろう。

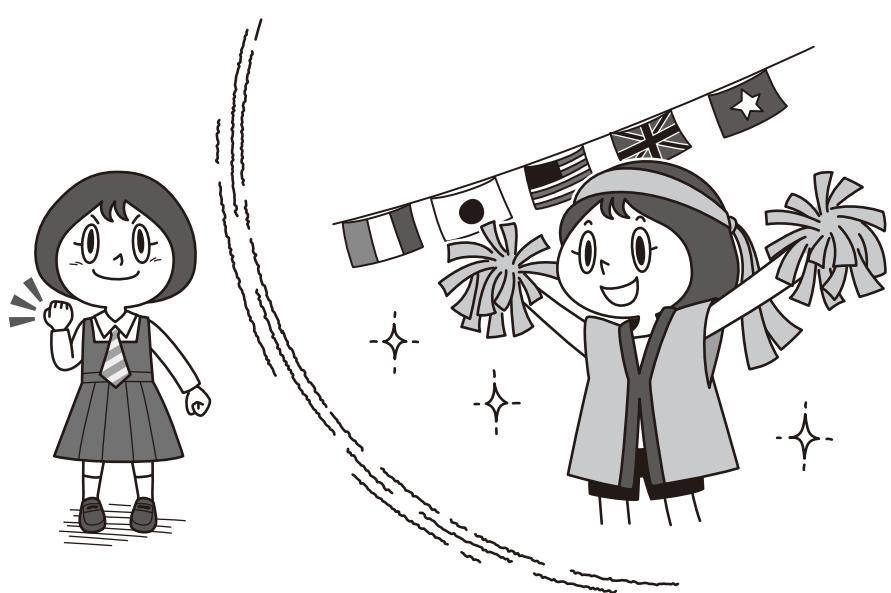
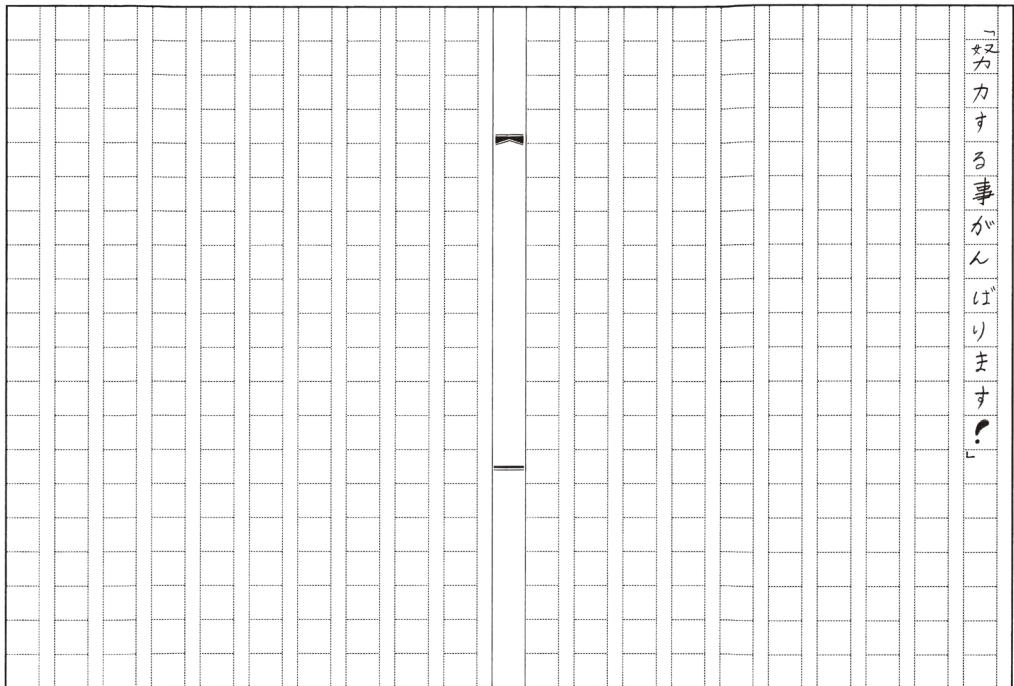
お友達は、「大事だね。それに気付くのも大事だね。新しいいちょう戦が、私を待つている。

ドキドキする最初の一歩は、とても大事な夕カラモノ。

努力するトネルの出口が見えてきた。努力する事はまだめんどくさいと思う事もあ

るけれど。す、と楽しくなる時がある。

「奴力
かす
る事
がん
ぱりま
す！」



銀賞

私とかるた

一年生の時 からうたの練習をしていて	私とかるた
	星里桜
先生は、とても明るい、大阪の方だった。でも、あいさつの時、	夏の夜は、まだ宵が明けぬるを。
	雲の下に月やどるらむ
人学校の学生生活がスタートした。校長先生とは、二日くらい前に会った。セレモニーで日本	何枚かのかたがゆかに落ちる、
	校長先生の声が聞こえる。全員が集中して、
先生は、とても明るい、大阪の方だった。でも、あいさつの時、	氣づいたら、自分はふしぎな空間にいた。
	一年の秋、九月二日から、私の口で日本
私は、二日くらい前に会った。セレモニーで日本	昨年の秋、九月二日から、私は日本
	人学校の学生生活がスタートした。校長先生とは、二日くらい前に会った。セレモニーで日本
先生は、とても明るい、大阪の方だった。でも、あいさつの時、	校長先生の声が聞こえる。全員が集中して、
一年生の時からうたの練習をしていて	雲の下に月やどるらむ

光塩女子学院

ても強かったから、私も負けないように、百人一首を一生けん命覚えた。家では、自習で宿題が終わったら、つねに百人一首の書かれてある紙を持ち、読みつけた。	でも強かったから、私も負けないように、百人一首を一生けん命覚えた。家では、自習で宿題が終わったら、つねに百人一首の書かれてある紙を持ち、読みつけた。
	転校してから二十日くらいたった、ある曜日に、自由参加のかた練習会があった。私は、かるたにつけて、あまり分からなかっただから、参加することにれた。
実際に行つてみると、イタリア人がにくさんいて、日本人は、五人ぐらいた。私は、かるたが日本語だから、イタリア人はなにも分からなかつたろう、そう思った。でも、実際にやつてみると、日本人の何倍も強くて、名人と戦えろぐらひだつた。私は、何を分からなかつて、校長先生の説明を一生けん命に聞いて、必死で覚えた。	転校してから二十日くらいたった、ある曜日に、自由参加のかた練習会があった。私は、かるたにつけて、あまり分からなかっただから、参加することにれた。
	実戦することになつた。初めての試合だ。とても不安だった、どうすればいいのか心の中がざわめいている。きんちくうれ

光塩女子学院

光塩女子学院初等科（5年）
星里桜さん

そんなことを考えて、さう内に十五分の暗記時間が始まると、一さ小声が聞こえなくなり、とても静かになつた。私も、集中して、場所を覚えた。

二時間ほどたち、試合が終わつた。結果は、三四枚ほどの差で、勝つことができた。自分でもおどろいた。あんなに不宜だつたのに、本当に勝てるなんて思ひもしなかつた。本当に勝てることで思ひもしなかつた。

二試合とも勝つことができた。それで、二試合にいどむことができた。

光塩女子学院

二試合とも勝つことができた。最初は、初めてだから、正直、試合ができるようにすることが大切にしよう。勝ちにけれど、ルールと理解し、相手もななくできることを覚きしよ。そう考えて、本当にうれしかった。だから、勝つことができて、本当にうれしかった。本当に、このような試合をしたい。私はそう思つた。

三週間がたった。六人の学習発表会に向けて、じんびなどが始まり、とてもいそがしく

から、たからか、かるたの練習がでくなかった。小倉百人一首も、忘れてきていた。どうしよう。せっかく覚えたのに、忘れてきていい。

と、私はおおあわて、いそいで百人一首の書いた紙を手にとり、読んで、校長先生がかけて下さったかるにで、はらい、团扇などを練習した。

本番まであと一週間。もう実せんけいしきの練習も始めて、いよいよ本番がやってきた。私は小学生の部で、同年代の友だちは強いので、中学生の部でたたかう。私は、今まで一番さんちようちよれた。最初で最後のがるた大会だ。がんばらになつて、ときどきしていふと、

光塩女子学院

「里桜ちゃん、トソアスリに入れるようになつね。私たちもがんばるから。」

と、友達が声をかけてくれた。私はこの言葉
で、きちんと落ち着かれて、集中することができ
ました。

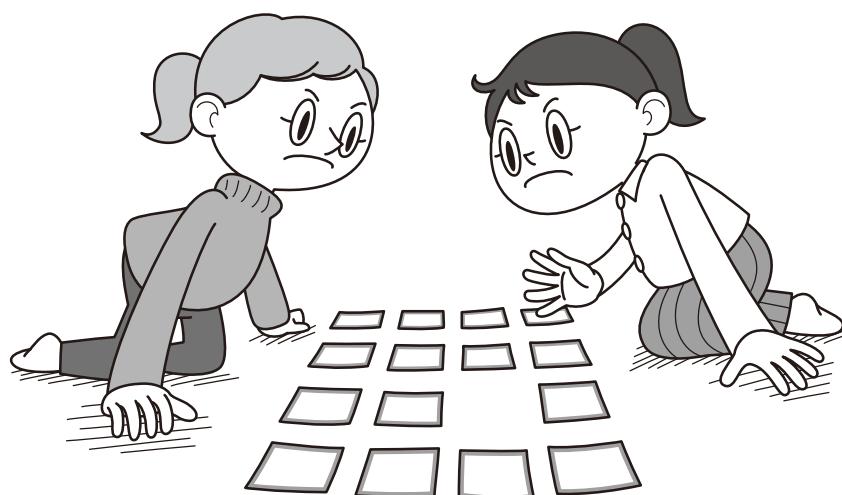
生徒がそろい、試合が始まると、久しぶり
に、静かな落ちついた、ふしぎな空間にはい
ました。そして、校長先生の声、たにみに当に
る手の音、床に落ちる二三枚のかかるたの音
が、校内をひびきわたる。それとともに、私
の心が落ちついでゆく。そこはまるで、森の
図書館のようだ、気持ち良かつた。

試合が終わり、結果発表が始まった。三位
二位と名前が読はれていく。以上、一位
の発表だ。校長先生が、名前を読んだ。

「一位、星里桜さん。」

私は名前を読みだして、もうれしかった。
あれから二ヶ月がたち、口、この別れが
決まつた。さみしかつた。でも、校長先生が
一半年で百人一首を覚えたのはすばらしい。
とほめてくれた。今でも忘れなゝ喜びだ。

光塩女子学院



銀賞

未来の私へとどけ！

「未来の私へとどけ！」 5B 安田茉希

私が新しく挑戦したことは、三年日記です。私は今、様々な仕事を始めたり、始めたからといふと今の私を思いを未来の私に届けたいからです。私は今、様々な仕事を始めています。アナウンサー、や気しよう予報士、医者、料理人、その他にもいはりますが、今気になつているのが「作家」です。たまに自分が子どものころの本を書いていたり、作家がいます。そして私はすごくその本が大好きです。私もそんなふうになりたい

光塩女子学院

など少しあこがれています。ですから三年日記を書いて未来の私が読んでおもしろいなと思つたりもしくは作家になつて私が読んで何かの参考にしてくれたらいいなと思います。私の書く三年日記は一ページ三つ書く場所があり来年の私がすぐ見られるようになつてしまつます。去年の私の今日はどんな日だ、大人だろうと思えばすぐわかります。だからその時に失望せないよう正直に書きたいです。そして、「おもしろい！」と笑ってくれたら

光塩女子学院初等科（5年）

安田
やすだ
茉希
まき
さん

いいかと思います。
前に友達とけんかしてすごくいらしかった時に日記に書くと少しあさま。たり、お店のマネキンのかつらがあちてて笑つた時書くと来年を私は笑つてくれるかなと思つたりします。悲しいことがあつても来年の私がほぐさめてくれる気がして安心します。三年日記を書くことで私の毎日のわくわくや楽しみが一つ増えました。来年の私は日記を書くのと日記を読むのも、とわくわくや楽しみが増え

再来年の私は日記を書き二つ日記を読むのでも、とも、とわくわくや楽しめが増えると見えます。そしてコツコツと毎日書いて私の幸せを無限大にしたいです。

これまで私は作家へ一步近づけたと思ひます。それはこの作文を書いたことと三年日記を書いていて、一冊の三年日記という本ができていると思ひます。内容はだれともちがう世界で一つの私の本ができると思ひます。

作文の部

この作文を書いてる時母が作家さんはも、と、ヒ原こう用紙に書くんだよね。つらさがわか、た?」なぜかといふと母は私が作家になりたいことを知らなか、だからです。私はこの作文よりも、と多い量を書いてる作家はつかれるのにすごいなとそんかいしますが、書いている人は楽しいんじやないかと思います。私が作家となつて自分が書く本がたくさんの人には読んでもうえるとしたらすごく樂しくてうれしいです。私よりも、とも、とたくさんの方の体験をしている作家だ、たらも、と楽しいんじやないかと思いまして。私が子どものころの話を書いたい理由は私自身が「ああ、子どものころこんなことがあ、たなーとふりかえ、たり」と考えることができたからです。そして読んでもいる人も子どもだ、たらたぶん今の私よりうに親近感を感じたり、大人だ、たら「私も

光塩女子学院

光塩女子学院

こんな時があ、たなーなつかしく感じて楽しく読んでくれると思います。しょう来の夢が作家と決ま、たわけではあります。でもどちらにしても三年日記は私の夢を見つけるいいき、かけになると思ひます。そして、三年日記だけではなくも、とい、はりません。まだ他にもたくさんいい職業があります。でもどちらにしても三年日記は私の夢を作ります。かけがあると思ひます。私はそのき、かけを見つけていい夢を見つけたいと思います。そう思ふと樂しみになりました。

銀賞

ぼくが考えたこと

東京都立大塚ろう学校
城東分教室小学部（6年）

佐々木 横之介さん

ぼくが考えたこと

佐々木 横之介

「ぼくのチームに入ってる。もう一度野球をやる」と思ってた。

六年生になっただけで、ぼくが五年生まで所属していた少年野球チームの支達からメー^ルが届いた。ぼくは小学一年から続けていた野球チームを五年生で辞めてしま^た。理由はぼくが耳が聴こえないからだ。周

りのチームメイトのコミニケーションが難しくて、仲間外れにさなつたりだつた。

野球を辞めて、ぼくは違う学校の友達に誘われてスケボー始めた。土日は必ず練習ばかりしていったので家族がキャンプや旅行に連れていいてくれた。楽しかったので、でもいいんだと思つていた。

だからメー^ルがきた時ぼくは迷っていた。このまま小学部を卒業するまで楽しい今までいたい。練習は大変だし、朝は早いし、また

聴こえる友達とコミュニケーションをとらなくちゃいけない。でも五年生までせいかく元頃張って続けてきた野球を辞めてしまうのはもったいない。ぼくはどうしたらいいのか迷つてしまつた。

でも、ぼくはもう一度野球をやることに決めた。潮見パワーズというチームに入ることが決まつた。みんなとても優しくて、とても楽しかつた。しかし、パワーズのみんなと仲良くできても、コミニケーションがとろの

がとても大変だつた。でもチームのみんなが気を使つてくれ、分かりやすくやり譲してくれた。ぼくは、パワーズに入つて良か^たな^くと思つた。

ぼくはチームの中の二人と仲良くなつた。ぼくもふくみた三人で夏休みに江ノ島に行くことにした。子どもだけ遠くまでお出かけする初めで、電車の行き方を調べたり、お店を調べたりした。当日は江ノ島の展望台に行ったり、水族館でイルカショーを見

作文の部

たりしてとても楽しかった。途中で道が分からなくなってしまったので調べたり、知らない人に教えられた、たりして大変だったけれど楽しかった。

今まで六年間ぶり返ると、苦しいことを楽しむこともたくさんあった。その中で一番苦しかったことは、聴こえる友達とコミュニケーションを取ることだ。聴こえる人が何を言っているのか分からず、とても苦しかった。でも初めて聴こえる友達ができる、分かる

まで何度もくり話してく末た。今まで二人左人に会ったことがなかっただし、聴こえる人が聴こえない人に優しくしてくれることがこんなにも嬉しいことなのが初めてだった。

だけど、聴こえないことは大変だと思う出来事がもう一つあった。うち学校の友達と映画を観に行うことになった時のことだ。おさんラグーンという映画を観ためだ。でもその映画には字幕がなくて、ち、とも楽しさをかた。

せ日本の映画には字幕がつかないんだろ。
字幕がないだけで、聴こえる人ととの差があるのだと思つて実感した。聴こえる人も聴こえない人も皆と一緒に楽しむことは不可能のように感じた。どうしたらいいのか、ぼくは考えるようになつた。

聴こえる人と聴こえない人が関わり合えるようにするためには、まず近くの学校と交流し、うの世界を知つてもらつことだ。も、ともフリ聴こえる人にうの世界を知つてもらふことが大切だと思う。聴こえる人も聴こえない人も当たり前に楽しめる世界にするために、ぼくにできることは何かを考えていきたい。

銀賞

自学ノートとライバル

東京都立大塚ろう学校
城東分教室 小学部 (6年)

原 健人 はら たけひとさん

自学ノートとライバル

原 健人

「カリカリ…よし、できたり!」

自学ノートでわからぬ漢字や歴史について調べた。宿題は簡単に終わらせようと軽く考えていた。

六年生になつたばかりのある日、社会のテストが返つてきした。齊藤君が

「点数は何点だった?」

と聞いてきた。ぼくは

「95点」

と堂々と言つと、齊藤君は百点のテストを見

せてきた。ぼくは、ひっくりしたと同時に悔しい感情があいてきた。ぼくは、歴史マンガが好きでよく読んでいた。でも95点だつた。齊藤君はどうや、て歴史を覚えたのだろう。

色々質問をして、歴史の話をする事が多くなつた。この人に負けないよう、追い付いたい、やるぞと心が熱く燃えてきた。

家に帰つて、最初は宿題を片付た。自学ノートをやる時、今日は、何のテーマにしようと? と考えた。もし、テーマが決まらないか? と考へた。もしくは、歴史や科学、苦手な教科の本、インターネットなどで調べて、大事な所や、覚えた所だけ書き取つた。文だけ書くのはつまらないので、絵も書いた。調べる量が自然と増えていき、自学の時間も長くなつた。歴史だけでなく、自分が興味を持った事をどんどん調べていくとすぐに頭に入つた。知りたいくこと、た内容はインターネットですぐに調べる事が出来て便利なので使う機会が増えた。

学校の授業は分かりやすくてテストの問題もよく分かるようになつた。齊藤君は相変わらず百点はアリとつていいるがぼくも百点を取る事が増えた。家の学習も集中して、あ、といつ間に夕食の時間になつていて、無心になつて勉強しているので、自学はちつとも苦下はない。

ぼくの大切にしている言葉がある。

「雨だね 石をうがつ」

これは母から教えてもらつた言葉だ。何年も垂れること石に穴を開けることができるという意味がある。少しずつ努力を続けねば、いい結果が出るということだ。このふうに、少しずつ努力を続けて、齊藤君に追い付きたい。追い付きたいけれど、また追い付けないから齐藤君はぼくのライバルだ。つやからも追い続けて、距離が一步でも近づくように挑戦を続けていく。

作文の審査を終えて

審査員の先生（敬称略）

ひじ
臂
はしゅら
みさと
美沙都
たつひこ
橋浦 龍彦

練馬区立高松小学校教諭（東京都小学校国語教育研究会）

北区立豊川小学校教諭（東京都小学校国語教育研究会）

今年の作文テーマは「新しく挑戦をしたこと」。応募された作品は、どれもみなさんが新たに挑戦したことが一生懸命に綴られていて、挑戦に燃えるみなさんの姿が目に浮かび、応援しながら読ませていただきました。

低学年は、たくさんのが詰まっている学年です。何事にも恐れず、わくわくしながら挑戦する様子が見られました。生活の中で体験する「初めて」に果敢に挑戦しているみなさん。できるようになつてきたことを素直に喜び、大きな一步を踏み出した印象をもちました。

中学年は、習い事や興味をもつたものに課題を見つけ、挑戦する姿が多くありました。目標に向けて、何度も何度も挑戦していく勇気をもらいました。お友達や家族など人の関わりの中で、さらに上を目指す姿が素敵でした。

高学年は、さすが高学年という文章。比喩表現や文章構成の工夫など多くの工夫が凝らされていました。挑戦するために行つたことやその時の心の動きなどが、表現豊かに綴られていました。非常にテンポがよい作品が多く、どんどん作品の世界に引き込まれました。今年は、東京2020オリンピック・パラリンピックが開かれます。『努力は裏切らない』の積み重ねがすぐものを言つ。これは、アテネオリンピックでマラソン金メダルを獲得した野口ひろきさんとの言葉です。今回、出品された全ての作品を拝見し、気づいたことがあります。それは、新たな挑戦の裏には、必ず『みんなの努力』が隠されていましたといふことです。「やつてみよう」と思つても、努力を続けることはなかなか難しいです。しかし、課題

を見つけ、前向きに挑戦し続けたのみなんだからこそ、その先でたくさんの「宝物」を手に入れられたのだと思いました。

思いを言葉にすることは、意外と難しいことです。しかし、文の「伝えた」という思いが、強く感じられました。素敵な思いを大切に、これからも「書くこと」で伝えることを楽しんでほしいと願っています。



審査中の臂美沙都先生（左）、橋浦龍彦先生（右）



コンクール入賞者

絶滅危惧種 シマフクロウ	成蹊小学校 (2年)
手の国	世田谷区立山野小学校 (2年)
川の上にあるくねこ	東京都立大塚ろう学校 (2年)
聖火をもって走る私	中央区立常盤小学校 (2年)
いるかたろうくん	東京都立大塚ろう学校小学部 (2年)
雪ふるふる	江戸川区立東小岩小学校 (3年)
キリンと木	光塩女子学院初等科 (3年)
犬	世田谷区立山野小学校 (3年)
森を走るトラ	世田谷区立山野小学校 (3年)
お弁当	東京都立墨田特別支援学校小学部 (3年)
すごく笑ってる顔	葛飾区立亀青小学校 (4年)
白くじやく	光塩女子学院初等科 (4年)
ウホウホウホウホ	墨田区立第三吾嬬小学校 (4年)
ワシよ	世田谷区立山野小学校 (4年)
へび	足立区立平野小学校 (4年)
葉っぱの中にかくれんぼ	東京都立大塚ろう学校 永福分教室小学部 (4年)
野球準備	葛飾区立こすげ小学校 (5年)
おはよう、朝日さん	東京都立大塚ろう学校 永福分教室小学部 (5年)
光の速さで飛ぶイヌワシのワッシャー	瑞穂町立瑞穂第四小学校 (5年)
木のぼりがとくいなゴウ	瑞穂町立瑞穂第四小学校 (5年)
猫の時間	絵画造形サークル (6年)
輝くかめ	中央区立有馬小学校 (6年)
不思議な生き物	東京都立大塚ろう学校 (6年)
何かを見つけた雷神	町田市立南大谷小学校 (6年)
元永	元永 陸さん (もとなが りくさん)
府内	府内 岸和田さん (ふない きしわださん)
葵さん	葵さん 瑞菜さん (あいのわ みずな)
星空	星空 一星さん (こっこう いつせいさん)
篠人さん	篠人さん こみみさん (しのひとさん ここみさん)
渡邊	渡邊 上山さん (わたなべ うさん)
高山	高山 酒井さん (たかやま さかいさん)
酒井	酒井 岸和田さん (さかい きしわださん)
元永	元永 葵さん (もとなが あいのわさん)
陸	陸 一星さん (りく いつせいさん)

金賞

私の大切なものの 絵画造形サークル（1年）

絵画造形サークル（1年）

むらまつ
村松

あやね
綾音さん



選
評

この作品はスチレン版画で、自分の表したい感じをのびのびと線で表しています。笑顔の女の子は、腕を大きく伸ばし、自分の大事なものを包み込んでいます。その上、その腕の形がハート型であり、女の子の表情とともに、作者の気持ちの温かさが伝わってきています。作品に近付いて向き合うと、思わず見る側を幸せな気持ちにしてくれる作品です。この温かさは、きっと作者に通ずるものなのでしょう。



冬のお友だち



田黒星美学園小学校（2年）

杉本 彩恵さん

選
評

寒い冬の日。雪が降っている
のでしようか。空から、雪が静
かに舞い降りています。この女
の子はマフラーや手袋をしてお
り、この雪の降る寒さの中も、
思わず笑顔がこぼれ、軽やかに
雪の中に立っています。足元の
生き物も女の子の子と一緒に嬉しそ
うですね。季節とともに、髪の
毛の動きの表現等、作者の気持
ちがあふれる紙版画の作品です
ね。

金賞

文ぼう具パズルのぼう子

東京都立大塚ろう学校
永福分教室小学部（3年）

やすみや
安宮 りんさん



選評

こんな帽子があつたらいな
と想像して、帽子をかぶつた自分を紙版画で表していますね。
安宮さんは、文房具が好きなので
でしょう。ハサミの形、鉛筆の
形、消しゴムの形：細かい部分
まで部品をつくって、よく表されて
います。一色でなくて、何色も使つて刷つて表した感じ
も、版画のよさを活かしていく、
とても面白いです。



夜のごどくなカメレオン



墨田区立中川小学校（4年）

矢澤
祥真さん

選
評

4年生で初めて彫刻刀を使つて彫つた作品でしようか。彫つた線が、ゆっくりと絵を描くよううに作品の中に広がり、作者が楽しんで彫る姿が目に浮かびます。中心は木の枝につかまる月光に輝くカメレオン。体が輝く感じ、木につかまる手足の感じが生き生きと表されていきますね。周りには風が吹いている感じも伝わってきます。作品を見た人に、作者の力強いパワーを与えてくれる木版画の作品です。

金賞

おかあさんが 大好きなりく



瑞穂町立瑞穂第四小学校（5年）

佐々木蓮さん

選評

親子のペンギンの温かい関係が伝わる作品です。親ペニギンは頭を下げる子を気遣つています。その温かさを受け、子ペニギンは力強く前を見つめており、作者の意志の強さを感じられます。彫り込み版画は重なる色、その先も予測して彫り進められる版画ですが、ペンギンの羽根の流れ、くちばしの赤等、効果的に表し、ペンギンの一瞬を切り取った印象的な作品です。



雷とarkan Let's Fly

町田市立南大谷小学校（6年）

小池 慧明さん
さとあき

選評

6年生らしく、「風神雷神図」の雷神を迫力ある構成で切り取り、木版画で表しています。彫り残して細い線や点を表すのはとても大変ですが、しっかりと版をつくれていてすばらしいと感嘆しました。そんな慎重な作業と同時に、彫った線からは、勢いのよさが伝わってきて、この作品がいきいきと見えるのだと思いました。

銀賞

ないたウミガメ

光塙女子学院初等科（1年）

丸山

礼さん



銀賞

バーベキュー中の ようす

東京都立大塚ろう学校
城東分教室小学校部（1年）

小山

嵩晃さん



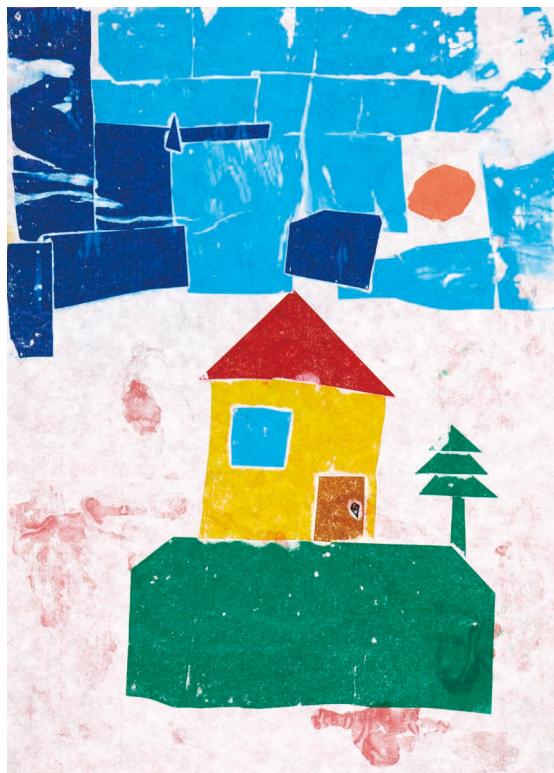
銀賞

ひみつのおひち

世田谷区立山野小学校（2年）

徳渕
とくぶち

璃子さん
りこさん



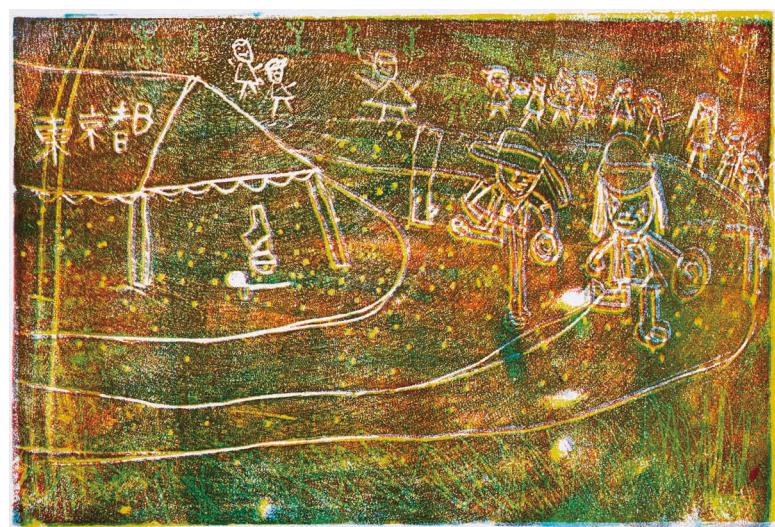
銀賞

いけ！リレー

東京都立大塚ろう学校
城東分教室小学校（2年）

片本
かたもと

結菜さん
ゆうな



銀賞

ねらわれているとり

世田谷区立山野小学校（3年）

中村 煌太なかむら こうたさん



銀賞

大マグロの親子

中央区立常盤小学校（3年）

金子 泰歓かねこ てふあんさん



銀賞

考える人

世田谷区立山野小学校（4年）

川松
かわまつ

叶芽さん
かなめ



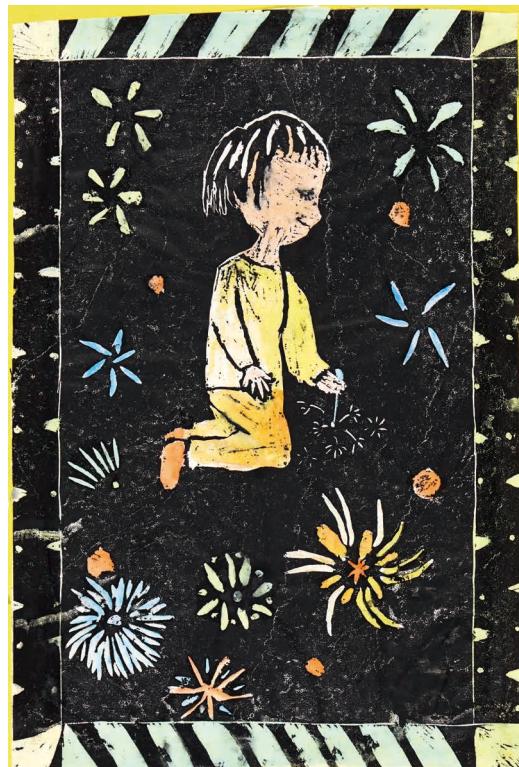
銀賞

せんこう花火を
している少女

世田谷区立山野小学校（4年）

町田
まちだ

あきひりさん



銀賞

ぞうの玉の イリュージョン

八王子市立武分方小学校 (5年)

小笠原 太壱おがさわら たいち
さん



銀賞

ふぶきを かけぬける鹿

福生市立福生第一小学校 (5年)

細谷ほそや

奏介そうすけ
さん



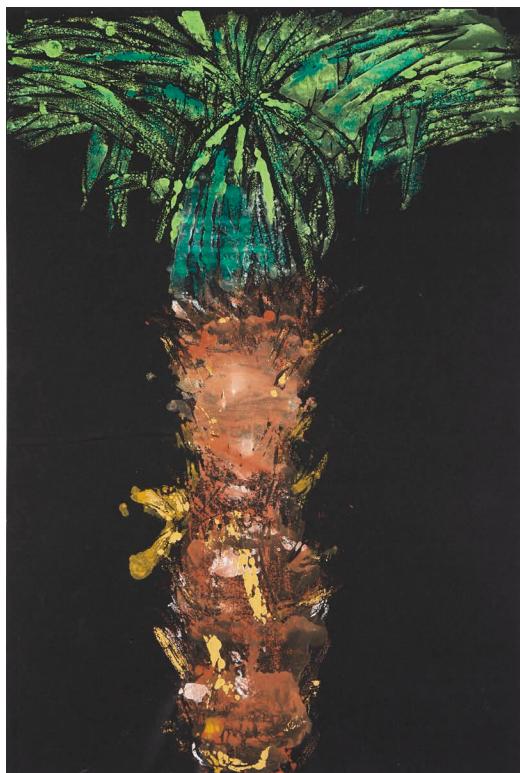


ヤシの木のようなソテツ

東京都立大塚ろう学校
永福分教室小学校
(6年)

佐藤さとう

建佑けんゆうさん



不動明王

港区立芝小学校 (6年)

五十嵐いがらし

大紘まさひろさん



版画の審査を終えて

審査員の先生 〈敬称略〉

たなか
田中
さいとう
齋藤

あけみ
明美
たかこ
貴子

品川区立立会小学校图画工作専科主幹教諭（東京都图画工作研究会）

荒川区立第二峡田小学校教諭（東京都图画工作研究会事務局庶務部長）

よく考えてつくっている作品がたくさんありました。色々な形で楽ししく活動した様子が想像できました。

三、四年生は、一、二年生で行つたことを活かしているように感じました。三年生では、いろいろな材料を組み合わせての版づくり、四年生では、初めての彫刻刀を使つての木版画の作品が多くつたです。それぞれ、材料をよく味わつて作品づくりをしているという印象をもちました。一番作品数が多く、多様な作品があつて、見ごたえがありました。

五、六年生は、木版画でも何色も使つて刷つていたり、彫り込み版画といふ、彫ると刷るを交互に繰り返して作品を完成させる版画を行つていりました。工程が複雑になつてゐる中、計画的にできあがりをイメージしながら、根気よく一生懸命につくり上げたこ



審査中の田中明美先生（左）、齋藤貴子先生（右）

とが伝わつてくる作品ばかりでした。画面のどこに主題をおけば効果的なのかなど、高学年らしい工夫も見て取れました。

審査では、版画らしいよさが表れていることを中心に、作者の思いいや作者らしさが感じられる作品を選びました。

最後になりましたが、子供たちの豊かな表現を引き出し、作品を応募してくださいつた指導者、保護者の皆様に心より感謝申し上げま



応募いただいた学校と作品数

学校名	作文	版画	合計
足立区立千寿常東小学校	1		1
足立区立平野小学校		68	68
板橋区立蓮根小学校	1		1
江戸川区立東小岩小学校		57	57
絵画造形サークル		5	5
葛飾区立亀青小学校		74	74
葛飾区立こすげ小学校		10	10
北区立岩淵小学校	1		1
光塩女子学院初等科	24	5	29
狛江市立狛江第三小学校	1		1
聖徳学園小学校	1		1
白百合学園小学校		1	1
新宿区立市谷小学校	5		5
墨田区立第三吾嬬小学校		36	36
墨田区立中川小学校		42	42
成蹊小学校		1	1
世田谷区立山野小学校	1	554	555
中央区立有馬小学校		281	281
中央区立常盤小学校		72	72
調布市立上ノ原小学校	1		1
帝京大学小学校	18		18
東京学芸大学附属世田谷小学校	1		1
東京都立大塚ろう学校小学部		5	5
東京都立大塚ろう学校 城東分教室小学部	7	25	32
東京都立大塚ろう学校 永福分教室小学部		21	21
東京都立墨田特別支援学校小学部		12	12
中野区立白桜小学校	15		15
練馬区立下石神井小学校		19	19
練馬区立泉新小学校	28		28
練馬区立立野小学校	1		1
八王子市立式分方小学校		22	22
福生市立福生第一小学校		20	20
マクタ作文教室	7		7
町田市立南大谷小学校		16	16
瑞穂町立瑞穂第四小学校		74	74
港区立芝小学校		5	5
明星小学校	1		1
目黒星美学園小学校	11	9	20
総計	125	1,434	1,559

(50音順)



応募作品数・学校数



	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
応募作品数	7	16	12	8	23	59	125
応募学校数	5	8	7	4	5	7	18



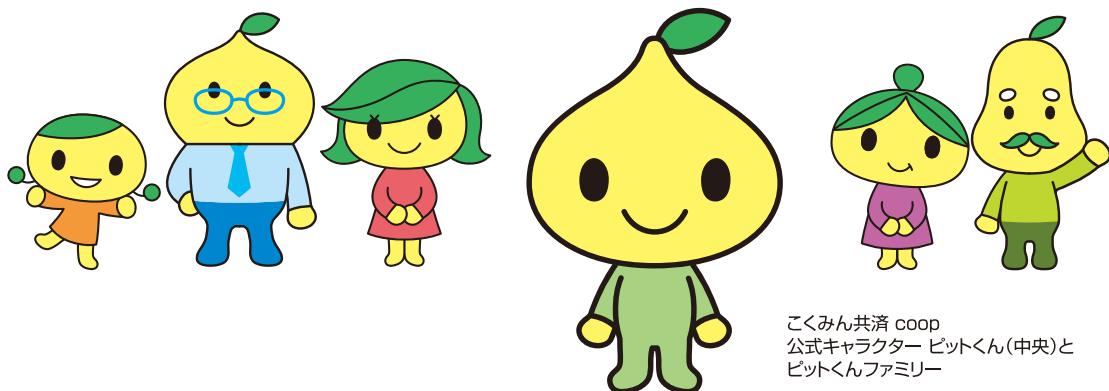
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	合計
応募作品数	19	213	293	487	304	118	1,434
応募学校数	6	7	8	12	10	6	24

応募作品数合計………**1,559点**

応募学校数合計………**38校**

※作文の部、版画の部の両方、および複数の学年にご応募いただいた学校があるため、各部の応募学校数の合計とは異なります。

2019年6月、 全労済から「こくみん共済 coop」へ



こくみん共済 coop
公式キャラクター ピットくん(中央)
ピットくんファミリー

全労済は、60年にわたって組合員の暮らしや災害に向き合い、たすけあいの輪を少しずつ広げてきました。

“誰一人、とり残さない社会へ”

新しい時代、その輪をさらに強くむすぶために——

2019年6月より新たな愛称「こくみん共済 coop」を定めました。

こくみん共済	総合医療共済	せいめい共済	火災共済
自然災害共済	マイカー共済	自賠責共済	交通災害共済
団体生命共済	新セット移行共済		



「こくみん共済 coop」は営利を目的としない保障の生協として共済事業を営み、相互扶助の精神にもとづき、組合員の皆さまの安心とゆとりある暮らしに貢献することを目的としています。この趣旨に賛同いただき、出資金を払い込んで居住地または勤務地の共済生協の組合員となることで各種共済制度をご利用いただけます。

たすけあいの輪をむすぶ
こくみん共済 <全労済>
全国労働者共済生活協同組合連合会 coop

こくみん共済
全国労働者共済生活協同組合連合会 

東京推進本部
(東京労働者共済生活協同組合)

〒 160-0023 新宿区西新宿7-20-8
TEL : 03-3360-6055